教育コラム「愛のかけはし」：２０９号

平成３１年　３月
江差町教育委員会
学校教育課

『 引越し 』

「引越し難民」という言葉が、昨年の春、世間を飛び交いました。ご存知のように、引越しのためのトラックや人員の確保ができず、これまでのようなタイミングでの引っ越しができない方が大勢出たためです。

今回も同様の状況が予想されるためか、「３月、４月は引越しが集中します。５月も視野に入れてください」と、早い段階から業界は広報活動に力を入れています。事情は理解できますが、「現実的にはどうなるのだろう？」と今一つイメージが持てません。

新たな勤務地での仕事は４月から始まりますので、身一つでまずは赴任し、かなり遅れてから荷物が届く。生活基盤が整うのは４月末か、５月の連休明け。では、それまでの生活はどうなるのか。さらに、赴任先の住宅が空いていなければ、しばらくはホテル暮らしになるのか・・・。こんな状況が出現するとは、やはり時代が大きく変わってきているのだなと改めて感じています。

引越しは、多大な労力と時間を要し負担感が強いです。私は、大嫌いです。ですから、引越しを伴わない転勤は、さぞかし楽だろうなと想像しています。実際、都市部内の学校の転勤であれば、あるいは郡部であっても自宅から通勤可能な範囲の学校への転勤であれば、引越しせずに済みます。実は、私も、一度だけ、引越しのない転勤がありましたが、とても楽でした。

若い頃は「教職員の転勤に、引越しは当たり前」という時代でした。毎年、３月末から４月初めは、「引越し大作戦」が展開されます。だいたいは、残留メンバーのリーダー格の教員が司令塔になります。職員室に引越しの予定表が掲示され、各日における〇〇の荷積み〇時、出発〇時、手伝い〇〇、同行者〇〇、〇〇の着〇時、受け〇〇などが記入されます。

異動する職員が多い時は、本当に大変でした。でも、その手伝いも大事な仕事と見なされていました。全ての引っ越しが終わり、同行者も戻ってくると、ほぼ全員が、校長宅に集合し「安着祝い」と称したご苦労さん会が開かれました。「出る方も、来る方も無事に引越しを終えることができた。良かった。良かった」と、校長先生が職員を労うのです。そして、残留組も転入組も参加するので、実質的な“顔合わせ”になっていました。このような様子は、平成の初めの頃まではあったかなと記憶しています。

さて、引越しの手伝いをしていると、その先生の人柄や力量というものが何となく推測できます。段取りが良く、荷作りも合理的な場合、作業がとてもスムーズに進むので、短時間で気持ち良く終わります。こういう引越しができる方は、やっぱり仕事もできました。

翻って、私の場合、見通しも甘く、手際も今一つでした。場数を踏むことで、何とかそ

れなりに、同僚に迷惑をかけないレベルにはなりましたが。

　実は、若い頃、引越しでは、とても苦い経験をしています。
　２校目の学校へ異動する際のことでした（確か２８歳の時です）。ある町が、家内ともども引き受けてくださることになりました。３月の末近くだったと思います。４月からお世話になる学校（私は中学校。家内は小学校）に、ご挨拶に行きました。車で片道３時間余。家に戻ったのは夜の８時近く。「晩ごはんをどうしようか？」「疲れたね。外食にしよう」ということで、さらに車で３０分近くかけてその町の中心街にある地元では有名な「鉄板焼き」店で、海鮮系の鉄板焼きを食べました。ちょっと違和感を覚えながらも、結局残さず食べました。

　翌朝、二人とも、激しい腹痛を覚え、トイレに駆け込みました。水のような便でした。それが、何度も繰り返されました。
　その時点で、荷作りは、ほとんど手つかず状態（段ボール箱はある程度用意していたと思います）でしたが、どうしようもなくなり、職場の上司に状況を伝えました。「まずは、病院だ」ということで、同僚の運転で隣の地区の診療所に行き診察を受けました。「食あたりでしょう」すぐさま、ベッドに横たわり、点滴を受けました。「しばらくは、安静にしてください」との指示で、住宅に戻ってからも、二人とも布団の中で休むしかありませんでした。前日の赴任先への挨拶等での気疲れと長時間の運転、加えて年度末業務の疲れが相まって、体が弱っていたのでしょう。
　しかし、この後、予想もしない状況に事態は展開していきます。
　同僚や用務員さんご夫妻が訪れ、我が家の荷作りを始めたのです。初めのうちは、「先生、これはどうする？」と確認を求められましたが、「とにかく箱に詰めていこう」ということになりました。その日のうちに荷作り作業は終わりました。私たちは、ただただ、布団の中から、「すみません。ありがとうございます」を繰り返すだけでした。感謝の気持ちでいっぱいでした。そして、本当に助かりました（この状況がなければ予定通りの引越しは無理でした）。その後、体調も回復し、赴任先への引っ越しは無事に終えることができました。ただ、箱の中身を全く把握していなかったので、荷ほどきにはかなりの時間がかかりましたが、箱を開けるたびに、助けてくださった皆さん一人ひとりの顔が思い浮かびました。

　「まずは、荷作りが肝要です」と、転勤が決まった若い職員には話すようにしていました。かつての自分の苦い経験からの言葉です。
　引越しは、大仕事。嫌いでもやらなければなりません。であるならば、早め早めの行動が大事であり、計画的に段取り良くやりたいものです。これは、日々仕事をする際に留意すべき事項、すなわち①現状の的確な把握②解決すべき課題の設定③先を見通す④進捗状況の点検⑤アプローチの修正⑥自己管理の徹底などに通ずるものがあると押さえています。
　今春の人事異動で、引越しを伴う転勤となられる皆さん、順調に、そして無事に事が進むことをお祈り申し上げます。